

認定NPO法人 野生生物保全論研究会 主催

# ワイルドライフ カレッジ 2023

## 受講者募集

「1年後の私は野生生物のために何かできるようになっている」をめざし、年間8回のオンラインでのセミナー（ウェビナー）とフィールドワーク、実践ゼミ、対面でのワイルドライフ・ギャザリングで構成したワイルドライフカレッジを開講します。



### 前期ウェビナー

市民活動の視点から野生生物保全の理論を学ぶ

- 第1回** 6/7 水 「美談」とされる保全活動を考える  
～生物多様性の定義から～  
講師：小川 潔（JWCS代表理事・東京学芸大学名誉教授）
- 第2回** 6/14 水 市民による生物多様性保全  
～市民モニタリングとは～  
講師：木村 進（公益社団法人 大阪自然環境保全協会 理事）
- 第3回** 6/21 水 環境アセスメントを考える  
～開発事業・計画に市民の意見を反映させるには～  
講師：遠井 朗子（酪農学園大学 教授）
- 第4回** 6/28 水 座談会 保全活動のあゆみと展望  
～ブレイクスルーのカギはどこ？～  
登壇者：志村智子（公益財団法人 日本自然保護協会事務局長）、  
つる 祥子（自然観察くまもと）、小川 潔（JWCS代表理事・学芸  
大学名誉教授）

### ウェビナー

開催時間：20：00～21：30

開催方法 Zoom ミーティング形式

※後日、録画視聴可能

前期申込締切：7月31日

後期受付期間：9月4日～11月30日

受講料 学生無料、一般 1,000円/回

### 申し込みフォーム

学生専用

一般



野生生物との  
付き合い方を考える

### フィールド ワーク 8/5-6 土・日

長野県伊那市を訪問して、クマと人間の共存について考えます。ツキノワグマの追跡調査や、調査から導き出された共生のための対策について学びます。

【訪問先】長野県 伊那市 他

【参加費】宿泊費実費 現地集合・解散

【参加条件】前期ウェビナー全4回受講

【申込受付期間】6月28日～7月12日

【定員】15名 申込者多数の場合は書類選考

【講師】瀧井 暁子 ほか

NPO法人 信州ツキノワグマ研究会メンバー



### 後期ウェビナー

保全活動のショーケース

- 第5回** 10/4 水 マルチセクターで取り組むオオサンショウウオの保全  
講師：田口 勇輝（日本オオサンショウウオの会）
- 第6回** 10/11 水 小笠原諸島の固有種アカガシラカラスバトをノネコから守る  
講師：佐々木 哲朗（NPO 法人 小笠原自然文化研究所 副理事長）
- 第7回** 10/25 水 市民運動としてのフェアトレード～生産地の生物多様性を守る～  
講師：小吹 岳志（フェアトレード・サマサマ 事務局長）
- 第8回** 11/8 水 アフリカゾウと地域住民との共存を目指して  
講師：中村千秋（NPO 法人 サラマンドフの会 代表）

オンライン/

### 実践ゼミ

【受講料】無料

【受講条件】ウェビナー全8回を受講

2023/11～2

※受講者に合わせ実施

### ワイルドライフ ・ギャザリング 2024/2/23 金・祝

AM 早春 東京湾自然観察会/行徳鳥獣保護区（千葉県）

PM 実践ゼミ発表会



地球環境基金 「ワイルドライフカレッジ 2023」は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。

## 前期ウェビナー(全4回)

### — 市民活動の視点から野生生物保全の理論を学ぶ —

野生生物の保全に関わりたい！保全活動に必要な知識って？ワイルドライフカレッジ2023 前期ウェビナーでは、授業では教えてもらえないような、マスコミでは取り上げられないような、国内の市民による活動に焦点を当てながら、野生生物保全について考えていきます。



【申し込み】必要（学生は1回の申し込みで4回すべて受講できます。）

受付期間：5月12日～7月31日

【参加費】学生：無料、学生以外：1,000円/回

＼広く知られている保全活動のなかには生態学的には問題があるものがある？／

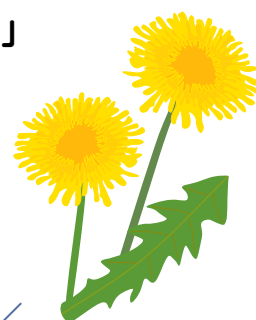
### 第1回「「美談」とされる保全活動を考える ～生物多様性保全の定義から～ ／冒頭：ワイルドライフカレッジ2023の目指すもの」

講師：鈴木 希理恵（JWCS 事務局長）、小川 潔（JWCS 代表理事・学芸大学名誉教授）

内容：イントロダクションとして当会事務局長の鈴木よりワイルドライフカレッジ2023の目指すものについてお話をします。続いて当会代表理事の小川とともに生物多様性保全において「良い」とされている活動について、生態学的視点から誤解や問題がないか考えていきたいと思います。

目指す姿：世間で「良い」とされている保全活動を生態学的に考える力を養います。

#生物多様性、#タンポポ、#サンゴ、#アメリカザリガニ、#ホタル、#外来種と在来種



＼継続は力なり！市民モニタリングで保全活動に貢献！／

### 第2回「市民による生物多様性保全 ～市民モニタリングとは～」

講師：木村 進（公益社団法人 大阪自然環境保全協会 理事）

内容：「市民活動は持続可能でない」と言われることがあります。しかし実は日本にも1970年代から、およそ半世紀にわたって市民による生物多様性モニタリングを続けているプロジェクトがあるのです。市民モニタリングの意義、市民活動継続の秘訣、そしてその結果わかってきた成果について学びます。

目指す姿：市民でも参加できるモニタリング調査が保全につながることを知ります。

#市民モニタリング、#タンポポ調査、#外来種と在来種



＼市民の声を政策に生かすには？／

### 第3回「環境アセスメントを考える

～開発事業・計画に市民の意見を反映させるには？～」

講師：遠井 朗子（酪農学園大学 教授）

内容：開発事業・計画において生物多様性の保全を実現する法的手段として、環境影響評価（環境アセスメント）への関心が高まっています。生物多様性を保全するアセスメントとは？市民の参加はなぜ重要なのか？環境アセスメントを、より開かれた、多様な価値の実現を目指す制度として捉え直すための視点を示します。

目指す姿：多様な価値観が存在することを理解し、その共存の道を考えます。

#環境アセスメント、#市民参加、#異なる価値観の共存



＼「自然科学の知識」と「法律や経済などを通じた社会への働きかけ」の連携プレイ！／

### 第4回「座談会 保全活動のあゆみと展望

～ブレイクスルーの鍵はどこ？～」

登壇者：志村 智子（公益財団法人 日本自然保護協会 事務局長）、つる 祥子（自然観察くまもと）、小川 潔（JWCS 代表理事・学芸大学名誉教授）

司会：鈴木 希理恵（JWCS 事務局長）

内容：「市民参加の重要性」が叫ばれて久しい今日ですが、今の日本の生物多様性政策は、市民の声が反映された政策であると言えるのでしょうか。もしそうでないとするなら、なにがボトルネックになっているのでしょうか。ローカルからグローバルまで、成功例から失敗例まで、市民活動の歴史を知る経験豊富な講師とともに課題を整理しながら「市民活動」のブレイクスルーにつながる鍵を探ります。

目指す姿：これまでの市民活動から得た学びを、未来に活かす方法を考えます。

#市民活動、#good practice、#生物多様性国家戦略、#パブリックコメント



## フィールドワーク(全1回、1泊2日)

### —野生生物との付き合い方を考える—

前期ウェビナーでは市民活動の視点から生物多様性保全の基礎について考え、学びました。次は実際に市民による保全活動が実施されているフィールドへ足を運んでみましょう！

2,953頭\* — この数字が何を意味するかわかりますか？  
2022年度に全国で捕殺されたツキノワグマの頭数です。  
そのうち6番目に多い177頭\*が長野県で捕殺されました。  
そんな長野県でツキノワグマと人との共存を目指して活動を行っている団体の一つが、NPO法人 信州ツキノワグマ研究会です。長野県では、生息地である森林の変化とともに、ツキノワグマの生息範囲や利用場所も変化して人との軋轢が増えています。クマの生態を調査することで、「捕殺だけではクマの被害は減らない」ということが明らかになってきているそうです。同会のフィールドの一つである長野県伊那市などを訪問して、ツキノワグマの追跡調査や調査から導き出された共存のための対策について学びます。普段は見ることができない保全活動の現場を見せていただくことができる大変貴重な機会です！

出典：環境省「クマ類の捕獲数（許可捕獲数）について」（R5年3月末暫定値）

#クマ、#獣害、#野生生物との共生

2023年8月5日(土)  
～8月6日(日) 1泊2日

訪問先：長野県 伊那市 他  
講師：瀧井暁子ほか NPO法人 信州ツキノワグマ研究会メンバー  
集合・解散場所：伊那市内（予定）  
アクセス：JR、高速バスなど  
宿泊：伊那市内（予定）  
定員：15名  
参加条件：前期の全てのウェビナーを受講された方（オンデマンド配信を後日視聴された方を含む）で、レポートをご提出のうえ申し込みをされた方。  
申し込み：必要。受付開始6月28日。「前期の講義を踏まえフィールドワークで学びたいこと」をレポートとしてご提出下さい。フィールドワークの講師へのご質問も歓迎致します。（詳細は第4回のウェビナーでお話致します。）

注意事項：受講料、現地移動費は無料。一般の方は伊那駅までの往復交通費、宿泊費、食費すべて自己負担となります。

## 後期ウェビナー(全4回)

### —保全活動のショーケース—

後期ウェビナーでは、国内外のさまざまな環境において、さまざまな野生生物の保全に取り組む市民団体よりゲストスピーカーをお招きして、活動についてお話をお聞きます。各ケースが抱える課題、苦労話、成功談など保全活動のリアルなお話を聞ける貴重な機会です。

【申し込み】必要（受付期間 9月4日～11月30日）

【参加費】学生：無料、学生以外：1,000円/回

### 第5回「マルチセクターで取り組むオオサンショウウオの保全」

講師：田口 勇輝（日本オオサンショウウオの会）

内容：国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオ。その調査・研究、飼育（！）、保全などに関わる多様なアクターが集う団体があります。子供まで楽しめる普及啓発、開発業者と連携しながら取り組む保全対策など、長年の経験から編み出された活動のアイデアを、オオサンショウウオの魅力的な生態や文化、最新の調査結果とともにお話頂きます。

#オオサンショウウオ、#天然記念物、#動物園、#研究と実践、#行政

### 第6回「小笠原諸島の固有種アカガシラカラスバトをノネコから守る」

講師：佐々木 哲朗（NPO 法人 小笠原自然文化研究所 副理事長）

内容：「ネコをきちんと家の中で飼う」、それだけでも地域の野生生物保全に貢献できるのです。東京から南に約1000kmの太平洋上に浮かぶ小笠原諸島では、飼い猫が野生化して、小笠原の固有種であり絶滅危惧種のアカガシラカラスバトなどの鳥類を食べてしまうという被害が発生しています。父島では2005年よりNPO、獣医師会、行政、企業が協働でノネコの捕獲・管理を始めたところ、全島的にノネコは低密度化し、アカガシラカラスバトなどの鳥類数に回復傾向が見られるようになりました。

#世界遺産、#絶滅危惧IA類、#アカガシラカラスバト、#ネコ

## 第7回「市民運動としてのフェアトレード～生産地の生物多様性を守る～」

講師：小吹 岳志（フェアトレード・サマサマ 事務局長）

内容：「フェアトレード」あるいは「エシカル〇〇」という言葉を聞いたことがある人、あるいはそういった商品を購入したことがある人も多いと思います。フェアトレードは「消費者教育」であると同時に「世界を良くする運動」でもあります。市民運動としてのフェアトレードとは？森や海の生物多様性保全につながる消費行動とは？そして国内で広がるフェアトレードタウン運動についてもご紹介します。

#フェアトレード、#エシカル消費、#フェアトレードタウン



## 第8回「アフリカゾウと地域住民との共存を目指して」

講師：中村千秋（NPO 法人 サラマンドフの会 代表）

内容：アフリカゾウなどの野生生物は、畑を荒らしたり、時には人と遭遇したりと、地域によっては深刻な軋轢を生みだしています。そんなケニアで村の子供たちへの環境教育や女性たちへの生計向上支援を行いながら、地域住民とともに野生生物保全に取り組む日本のNPOがあります。

#アフリカ、#ゾウ、#コミュニティ支援、#環境教育、#野生生物との共存



## 実践ゼミ

—ワイルドライフカレッジ 2023 で学んだことを発信してみよう！—

国内および国際的に野生生物保全に取り組む JWCS の活動を体験してみませんか？ワイルドライフカレッジ 2023 を通して学んだ野生生物保全の理論と実践の知識（インプット）を、JWCS の普及啓発活動の一部として発信してください（アウトプット）。

### 実践ゼミで利用可能な JWCS のツール

- JWCS の note ブログ <https://note.com/jwcs/>
- JWCS ラジオ <https://www.jwcs.org/education/radio/>
- Facebook @JapanWildlifeConservationSociety
- Twitter @JWCSJWCS

### 日程（例）

- JWCS ブログへの投稿：執筆時間+アドバイスメールやり取り 5 往復程度
- JWCS ラジオの企画：企画ミーティング、収録、編集作業で 1 時間×7 日程度
- イベント企画：企画ミーティング 1 時間×7 日程度とイベント当日 など



### 申し込みについて

- 受講料無料
- 前期・後期ウェビナーをすべて受講された方（オンデマンド配信を後日視聴された方を含む）
- 書類審査  
「①各ウェビナーを受講して考えたこと、  
②実践ゼミでやってみたいこと」
- 受付開始 2023 年 11 月 8 日（水）



## ワイルドライフ・ギャザリング

—ワイルドライフカレッジ2023 を振り返り、来年のゴールを定める—

野生生物保全の理論、国内や海外の活動事例を学び、実際にJWCS の一員となり活動を体験した一年間を振り返ります。

午前中は行徳鳥獣保護区（千葉県市川市）で野外観察会を行います。東京都から千葉県へとつながる湾岸エリアは、かつては干潟や葦原が広がり、豊富な鳥類で有名な湿地帯でした。開発のためほとんどが埋め立てられましたが、その一角に湿地環境の確保のために保全・造成された貴重な場所、それが行徳鳥獣保護区です。保護区の管理活動に携わってきた蓮田純子さんと、NPO 法人 行徳自然ほごくらぶの案内で、保護区の歴史や自然、環境改善のための管理手法などについて学びます。身近にある自然も、ワイルドライフカレッジ受講後には、いつもと違って見えるかと思います。午後は実践ゼミ受講生による活動成果の発表会を行います。発表会の締めくくりには、みんなでワイルドライフカレッジ2023 への感想や、来年度への要望、JWCS の活動についてお話ししましょう！

### 活動

日程：2024年2月23日（金・祝）（雨天決行）

- 早春 東京湾自然観察会 10:00~12:00  
現地講師：蓮尾 純子（千葉県野鳥の会）  
集合・解散：行徳鳥獣保護区（千葉県市川市）
- 実践ゼミ発表会 13:00~15:00  
場所：未定

申込：必要

参加費：無料 ※ 遠方の学生には交通費を補助します。（定員 15 名）  
実践ゼミ受講生、カレッジ受講者はもちろん、どなたでもご参加ください。



## 次年度インターンシップ

—JWCS の一員として主体的に活動する—

「一年後の私は、野生生物のために何かができるようになっている」、その「何か」はなんでもいい。一つの選択肢として、ワイルドライフカレッジ2023 で得た知識や知見・経験を活かし、中・長期のインターンシップ制度でJWCS の一員として活動してみませんか？やイベントの企画・運営・普及啓発などを通じて、より深くJWCS の活動に関わってくれる方を募集します！

### 活動

- 次年度のワイルドライフカレッジの運営
- JWCS が主催するウェビナー等のイベント企画や運営
- SNS 等を活用した普及啓発活動
- 調査提言活動の補助 など

応募条件：実践ゼミと実践ゼミ発表会の受講者

## お問い合わせ

- お問い合わせフォーム  
<https://www.jwcs.org/contact/>
- JWCSウェブページ  
<https://www.jwcs.org/>



地球環境基金  
Japan Fund for Global Environment

「ワイルドライフカレッジ 2023」は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。



認定NPO法人 野生生物保全論研究会(JWCS)